

# Sun Java™ Enterprise System リリースノート (Microsoft Windows 版)

バージョン 2005Q1

Part No. 819-3935

---

このリリースノートには、Sun Java™ Enterprise System 2005Q1 for Windows がリリースされた時点で入手可能な重要な情報が記載されています。このリリースには、既知の制限事項と問題点、技術情報、およびその他の情報が含まれています。Java Enterprise System の使用を開始する前に、このリリースノートをお読みください。

このリリースノートの最新版は、Sun Java Enterprise System マニュアルの Web サイト <http://docs.sun.com/app/docs/prod/entsys?l=ja> で参照できます。ソフトウェアをインストールおよび設定する前、およびそれ以降も定期的にこの Web サイトをチェックして、最新のリリースノートと製品マニュアルを確認してください。

このリリースノートには、以下の節が含まれています。

- [リリースノート改訂履歴](#)
- [Sun Java Enterprise System 2005Q1 について](#)
- [このリリースで修正されたバグ](#)
- [重要な情報](#)
- [既知の問題および制限事項](#)
- [再配布可能なファイル](#)
- [問題の報告とフィードバックの方法](#)
- [Sun が提供しているその他のリソース](#)

このリリースノートで紹介されているサードパーティーの URL を参照すると、追加情報および関連情報を入手できます。

---

## 注

Sun は、このリリースノートに記載されたサードパーティーの Web サイトの有効性および有用性に関して責任を負いません。Sun は、これらのサイトまたはリソースで利用可能な内容、広告、製品、他の資料に関し、それらを保証することも、責任や義務を負うこともありません。Sun は、これらのサイトやリソースで利用可能な内容、製品、またはサービスを使用または信頼することに起因するいかなる直接的または間接的な損害についても責任を負いません。

---

---

# リリースノート改訂履歴

**表 1** 改訂履歴

日付	説明
2005年2月	Sun Java™ Enterprise System リリースノート (Microsoft Windows 版) の最初のリリース
2005年7月	Sun Java™ Enterprise System リリースノート (Microsoft Windows 版) の商用リリース (RR) バージョンのリリース

---

---

## Sun Java Enterprise System 2005Q1 について

この節の構成は次のとおりです。

- [Sun Java Enterprise System の Windows 用コンポーネント](#)
- [Sun Java Enterprise System の新機能](#)
- [システム要件](#)
- [Solaris と同等の Windows パッチレベル](#)
- [Java 2 Standard Edition の要件](#)
- [サポートされない機能](#)

## Sun Java Enterprise System の Windows 用コンポーネント

次のコンポーネントは、Sun Java Enterprise System の Windows バージョンでサポートされています。

- Sun Java System Access Manager 6 2005Q1
- Sun Java System Application Server 8 2005Q1
- Sun Java System Calendar Server 6 2005Q1
- Sun Java System Directory Proxy Server 5 2005Q1
- Sun Java System Directory Server 5 2005Q1
- Sun Java System Instant Messaging 7 2005Q1
- Sun Java System Message Queue 3 2005Q1
- Sun Java System Messaging Server 6 2005Q1

- Sun Java System Portal Server 6 2005Q1
- Sun Java System Web Server 6.1 SP4 2005Q1

## Sun Java Enterprise System の新機能

表 2 Sun Java Enterprise System コンポーネントの新機能

コンポーネント製品	機能
Access Manager	<ul style="list-style-type: none"> <li>製品名が Identity Server から Access Manager に変更されました</li> <li>新しい認証モジュール : Java Database Connectivity (JDBC)、Mobile Station ISDN (MSISDN)、Active Directory、および Security Assertion Markup Language (SAML)</li> <li>ポリシー管理に、HttpURLResourceName という新しいリソース名プラグインができました</li> </ul> <p>コンソールの拡張機能 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>オブジェクトの 1 つまたは複数の属性の表示による、ナビゲーション区画への各オブジェクトタイプの表示のカスタマイズ</li> <li>ナビゲーション区画ドロップダウンメニューへの新しいオブジェクトタイプの追加 (たとえば、プリンタまたはビルドのエントリの追加)</li> </ul> <p>連携管理 :</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Liberty Alliance Project (LAP) Name Identifier Mapping Protocol のサポート</li> <li>LAP Identity Web Services Framework (ID-WSF) Discovery Service Specification, Version 1.1 のサポート</li> <li>LAP ID-WSF Authentication Service Specification のサポート</li> <li>LAP Metadata Description および Discovery Specification のサポート</li> <li>LAP Liberty Identity Federation Framework (ID-FF) Extended Profiles のサポート</li> <li>Dynamic Identity Provider Proxying</li> <li>Affiliation Federation</li> <li>One-time Federation</li> <li>Name Identifier Mapping Profile</li> <li>Name Identifier Encryption Profile</li> </ul> <p>Client SDK:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>Java アプリケーション開発者による Access Manager との統合を向上させるための、SDK パッケージの認証、サービス管理、ユーザー管理、SAML、ポリシークライアント、およびセッションの各コンポーネントへの再編成</li> <li>serverconfig.xml ファイルへの依存性の解消および jar ファイルのフットプリントの縮小</li> </ul> <p>Application Server 8.1 を Web コンテナとして調整するためのパフォーマンスチューニングスクリプトが使用できます</p>
管理サーバー	<ul style="list-style-type: none"> <li>新機能なし</li> </ul>

表 2 Sun Java Enterprise System コンポーネントの新機能 ( 続き )

コンポーネント製品	機能
Application Server	<ul style="list-style-type: none"> <li>• JSEE 1.4 サポート</li> <li>• 高パフォーマンスおよびスケーラビリティ</li> <li>• 高可用性</li> <li>• JavaServer Faces 1.1 サポート</li> <li>• JavaServer Pages Standard Tag Library 1.1 サポート</li> </ul>
Calendar Server	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 自動バックアップ : csstored サービスは、現在、start-cal の発行時に起動するサービスです。正しく機能するためには、設定を実行する必要があります</li> <li>• 読み取り専用データベース : カレンダーデータベースに対して読み取りのみを行い、更新または削除は行わないように Calendar Server を設定できます。これは、データの破壊が疑われるが本番稼働での作業にデータベースを常に使用できるようにしておかなければならない場合に、推奨します。この場合、更新または削除はできません。</li> <li>• ユーザー管理ユーティリティー名の変更 : ユーザー管理ユーティリティー ( コマンド行ユーティリティー ) は、Delegated Administrator ユーティリティーと呼ばれるようになりました</li> <li>• Delegated Administrator GUI: これは新しい Delegated Administrator GUI ですが、2005Q1 リリースの Calendar Server はサポートしません</li> <li>• ディレクトリ作成スクリプトのインストールの変更 : インストール後の設定プログラムは、Java Enterprise System インストーラで別々にインストール可能なコンポーネントになりました。Calendar Server のインストールではバンドルされなくなりました</li> <li>• このリリースでは csstored サービスが追加されました</li> </ul>
Directory Proxy Server	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新機能なし</li> </ul>
Directory Server	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Directory Server 5.2 2005Q1 より前のバージョンの Directory Server では、エントリの名前を変更できませんでした。Directory Server 5.2 2005Q1 では、エントリについての、名前の変更および削除ができます。</li> <li>• レプリカごとの更新の順序を識別するための旧バージョン対応更新履歴ログの拡張</li> </ul>
Instant Messaging	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Instant Messaging クライアントの更新および改善</li> <li>• XMPP、IETF Instant Messaging および Presence 標準プロトコル</li> <li>• 監視機能の拡張</li> <li>• ウォッチドッグユーティリティーによる監視</li> <li>• ウォッチドッグユーティリティーの状態の確認</li> <li>• ウォッチドッグユーティリティーの開始および停止</li> <li>• Instant Messaging サーバーの監視</li> </ul>

表 2 Sun Java Enterprise System コンポーネントの新機能 ( 続き )

コンポーネント製品	機能
Message Queue	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 『技術の概要』 の新規作成</li> <li>• 『管理ガイド』 の構成の変更</li> <li>• 『Developer Guide for Java Clients』 の構成の変更</li> <li>• 『Developer Guide for C Clients』 の構成の変更</li> <li>• Dead Message キュー</li> <li>• 非通知モード</li> <li>• 接続の失敗の検出 ( クライアントの Ping )</li> <li>• クライアントメッセージ本体の圧縮</li> <li>• JMS リソースアダプタの変更</li> <li>• 64 ビット C-API のサポート</li> <li>• -p/-password コマンドの非推奨</li> <li>• C-API 証明書管理</li> <li>• C-API 基本認証サポート</li> <li>• 新しいサンプルアプリケーション (MQPing)</li> </ul>
Messaging Server	<ul style="list-style-type: none"> <li>• Sun Java System Communications Services 6 2005Q1</li> <li>• Secure/Multipurpose Internet mail Extension (S/MIME) を、Sun Java System Communications Express Mail によりサポート</li> <li>• Internet Content Adaptation Protocol (ICAP) で動作するスパム対策およびウィルス対策プログラムのサポート</li> <li>• ログ機能の拡張</li> </ul>
Portal Server	新機能なし
Web Server	新機能なし

## システム要件

Sun Java Enterprise System および関連するアプリケーション用に、少なくとも 30M バイトのディスク容量が必要です。Sun Java Enterprise System 用のオペレーティングシステムは、Windows 2000 Advanced Server、Service Pack 4 です。

**表 3** Java Enterprise System 3 Windows をサポートするプラットフォーム

プラットフォーム	代表的なハードウェア	RAM 最小値	RAM 推奨値	スワップスペース
Windows 2000 SP4	PIV またはそれ以降、8G バイト	512M バイト	1G バイト	2G バイト
Windows XP SP2*	PIV またはそれ以降、8G バイト	512M バイト	1G バイト	2G バイト

\*. 開発用のみ

**表 4** コンポーネントのディスクインストール領域と RAM 要件

コンポーネント	インストール用の最小限のディスク容量と RAM 要件
Messaging Server	500M バイトのディスク容量、512M バイトの RAM
Message Queue	30M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Instant Messaging	300M バイトのディスク容量、512M バイトの RAM
Directory Server	50M バイトのディスク容量、512M バイトの RAM
Directory Proxy Server	200M バイトのディスク容量、512M バイトの RAM
Web Server	300M バイトのディスク容量、256M バイトの RAM
Application Server	500M バイトのディスク容量、512M バイトの RAM
Portal Server、Portal Server SRA	1G バイトのディスク容量、512M バイトの RAM
Calendar Server	500M バイトのディスク容量、128M バイトの RAM
管理サーバー	50M バイトのディスク容量、512M バイトの RAM
Access Manager	100M バイトのディスク容量、512M バイトの RAM

ディスク容量および RAM 要件の詳細は、各コンポーネントのリリースノートを参照してください。

## Solaris と同等の Windows パッチレベル

Windows 用の JES 2005Q1 コンポーネントは、Solaris 用の最初の JES 2005Q1 リリースと同じソースコードレベルに対応しますが、次のコンポーネントは除きます。下記のリストに引用されているパッチレベルは、Solaris バージョンのパッチレベルと同等です。

Delegated Admin	118210-24 (sparc)
Communications Express	118540-10 (sparc)
Instant Messaging	118788-05 (sparc - core)、118789-05 (sparc - im -sdk)
Calendar Server	116577-18 (core)、117011-16 (I10n)
Messaging Server	118207-28 (sparc)

## Java 2 Standard Edition の要件

Sun Java Enterprise System は、Sun Microsystems により Java 2 Standard Edition (J2SE) 1.5\_01 で使用できることが検証されています。Java 2 Standard Edition 1.4.x の後続リリースも、Sun Java Enterprise System で機能します。

Sun Java Enterprise System 2005Q1 には、適切なバージョンの J2SE が組み込まれています。

使用しているシステムにすでに J2SE 1.5\_01 実行時環境がインストールされていて、開発ツールがインストールされていない場合は、Sun Java Enterprise System の再インストール中にインストーラにより開発ツールパッケージがインストールされます。このパッケージには、Sun Java Enterprise System に必要ないくつかの機能が含まれています。使用しているシステムにインストールされている J2SE のバージョンを確認する方法と、Java Enterprise System をインストールする前にシステムを準備する方法については、<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-0808?l=ja> にある『Java Enterprise System インストールガイド』を参照してください。

## サポートされない機能

サポートされない機能のリストは次のとおりです。

- Sun Cluster および Net Connect
- サポートされていない Sun ONE 製品との相互運用性
- BEA WebLogic および IBM WebSphere の Web コンテナサポート
- Apache および IIS のロードバランササポート



---

## このリリースで修正されたバグ

ありません。

---

## 重要な情報

この節には次の内容が含まれています。

- コンポーネントのリリースノート
- [Netscape Security Services 3.9.5 のサポート](#)

## コンポーネントのリリースノート

Sun Java Enterprise System コンポーネントに固有の情報はすべて、各コンポーネントのリリースノートに記載されています。

- 『Access Manager 6 2005Q1 Release Notes for Windows』  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1574>
- 『Administration Server 5 2005Q1 Release Notes for Windows』  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1575>
- 『Application Server Enterprise Edition 8 2005Q1 Release Notes for Windows』  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1576>
- 『Calendar Server 6 2005Q1 Release Notes for Windows』  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1578>
- 『Directory Proxy Server 5 2005Q1 Release Notes for Windows』  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1580>
- 『Directory Server 5 2005Q1 Release Notes for Windows』  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1581>
- 『Instant Messaging 7 2005Q1 Release Notes for Windows』  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1583>
- 『Message Queue 3 2005Q1 Release Notes for Windows』

<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1584>

- 『Messaging Server 6 2005Q1 Release Notes for Windows』  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1585>
- 『Portal Server 6 2005Q1 Release Notes for Windows』  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1586>
- 『Web Server 6.1 SP4 2005Q1 Release Notes for Windows』  
<http://docs.sun.com/app/docs/doc/819-1587>

## Netscape Security Services 3.9.5 のサポート

Netscape セキュリティーライブラリのバージョン 3.9.5 は、Java Enterprise System に含まれています。Directory Server、Directory Proxy および管理サーバーは `¥<jes-install-dir>¥share¥lib¥` にインストールされたライブラリのバージョンに依存しますが、それ以外でこれらのライブラリに依存するすべてのコンポーネントは `¥<jes-install-dir>¥share¥lib¥jes` にインストールされたより新しいバージョンに依存します。

---

## 既知の問題および制限事項

この節では、Sun Java Enterprise System for Windows の既知の問題と制限事項について記載します。その他のプラットフォームでの既知の問題と制限事項のリストについては、<http://docs.sun.com/source/819-0815?l=ja> を参照してください。

この節では、次のトピックを扱います。

- 空き容量要件
- 「あとで設定」
- フォルダ名
- インストール先フォルダパス
- インストール
- ディスク容量
- ログインエラー
- 一般的な問題

## 空き容量要件

### システムフォルダ Temp ディレクトリには、インストーラのサイズの 2 倍の容量が必要 (6237302)

コンピュータのシステムドライブ Temp フォルダには、インストーラのサイズの 2 倍の空き容量がなければなりません。

たとえば、インストーラの zip ファイルのサイズが 380M バイトである場合、デフォルトのシステムドライブ [C:¥] Temp フォルダには  $380 \times 2 = 760\text{M}$  バイトの空き容量が必要であり、同じ要件がインストールディレクトリにも適用されます。これは InstallShield の要件でもあります。他のドライブ [D:¥ または E:¥] にインストールする場合にもこの要件は適用され、そのドライブには 780M バイト以上の空き容量が必要となります。

#### 回避策

ありません。

## 「あとで設定」

### 「あとで設定」モードで、ユーザー ID またはパスワードの後ろにスペースがあると、設定が失敗する (6232650)

「あとで設定」モードで、いずれかの製品のプロパティファイル内のユーザー ID またはパスワードの後ろにスペースがあると、製品の設定を正常に行えなくなります。

#### 回避策

ありません。

## フォルダ名

### フォルダ名にスペースが含まれるフォルダには、JES をインストールできない (6293986)

たとえば、Program Files フォルダの場合、語と語の間にスペースのない ProgramFiles という名前にする必要があります。

#### 回避策

ありません。

## インストール先フォルダパス

### インストール先フォルダパス「/」が zh\_CN ロケールで正しく表示されない (6290945)

Windows 2000 AS に JES3 をインストールする場合、「インストール先の場所を選択」パネルのデフォルトのパスは C:/Sun/ です。中国語では、「/」が RMB 文字として表示されます。

#### 回避策

ありません。

## インストール

### JES のインストール中に、Web コンテナ (WS/AS) を選択するパネルが使用できない (6282934)

JES Web コンテナダイアログボックスは、インストール時に「製品の選択」パネルで Web コンテナ (Application Server または Web Server) を何も選択していない場合にのみ表示されます。

#### 回避策

ありません。

### インストーラが MS の設定時に、ディスクパッチャーサーバーの起動で止まってしまう (6278215)

#### 回避策

Ctrl+C を押して MS 設定を停止します。インストールが終了した後で、コマンドプロンプトから <INSTALL\_DIR>/Server-Root/sbin に移動して、stop-msg および start-msg を実行します。こうすることで、すべての MS サービスが起動します。

## ディスク容量

### JES - MQ PE distro インストールで致命的なエラーが起きる (6285856)

JES のインストールで、十分なディスク容量がないドライブにインストールし、途中で別のディスク容量が十分にあるドライブに切り替えると、致命的なエラーになります。

インストールを始める前に、製品をインストールするドライブに十分な容量があることを確認してください。現在のドライブに十分なメモリー容量がないことを示すエラーメッセージが表示されると、別のドライブへシフトできなくなります。インストーラは致命的なエラーを報告して、異常終了します。

## ログインエラー

**PS にログインできず、エラーページに「デスクトップに深刻なエラーが発生しました」と表示される (6291499)**

これは、サーバーの設定ミスが原因である可能性があります。この問題を管理者に報告してください。

### *回避策*

インストール完了後に、Directory Server を起動してから Web コンテナ (Web Server または Application Server) インスタンスを開始します。<INSTALL\_DIR>/PortalServer/config にある psconfig.bat に -S オプションを指定して (つまり psconfig -s) 実行し、再設定が完了した後で、コンテナインスタンスをもう一度開始します。

## 一般的な問題

- 例外が発生してプロキシレットをダウンロードできない (6297852)
- JES RR ビルドでリバースプロキシはテストされていない (6298197)
- 2 種類のサブネットについてゲートウェイはテストされていない (6299958)
- このリリースの JES は、AMD プロセッサでのテストを行っていません。

---

## 再配布可能なファイル

Sun Java Enterprise System 2005Q1 には、再配布可能なファイルはありません。

## 問題の報告とフィードバックの方法

Java Enterprise System で問題が発生した場合は、次のいずれかの方法でご購入先のカスタマサポートに連絡してください。

- 次のアドレスにある、ご購入先のソフトウェアサポートサービス  
<http://www.sun.com/service/sunone/software>  
このサイトには、メンテナンスプログラムおよびサポート連絡先番号だけでなく、Knowledge Base、オンラインサポートセンター、および Product Tracker へのリンクがあります。
- 保守契約を結んでいるお客様の場合は、専用ダイヤルをご利用ください。

問題解決のお手伝いをするにあたって、サポートに連絡する際には次の情報をご用意ください。

- 問題の説明。問題が発生する状況や、その問題が操作に及ぼす影響など
- マシン機種、OS のバージョン、および製品のバージョン。問題に影響を及ぼしている可能性のあるパッチその他のソフトウェアなど
- 問題を再現するための詳細な手順の説明
- エラーログまたはコアダンプ

## コメントの送付方法

Sun では、マニュアル品質改善のため、ユーザーの皆様のご意見、ご提案をお待ちしています。

コメントを共有するには、<http://docs.sun.com> に移動し、「コメントの送信」をクリックします。オンラインフォームでは、マニュアルのタイトルおよび Part No. が提供されています。Part No. は、マニュアルのタイトルページか先頭に記述されている 7 桁または 9 桁の番号です。たとえば、このマニュアルのタイトルは『Sun Java™ Enterprise System リリースノート (Microsoft Windows 版)』であり、Part No. は 819-3935 です。

---

# Sun が提供しているその他のリソース

次のインターネットアドレスには、Sun に関する役立つ情報が掲載されています。

- Sun Java System のマニュアル  
<http://docs.sun.com/app/docs/prod/java.sys?l=ja>
- Sun Java System の上級者向けサービス  
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System のソフトウェア製品とサービス  
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System のソフトウェアサポートサービス  
<http://www.sun.com/service/sunone/software>
- Sun Java System のサポートおよび Knowledge Base  
<http://www.sun.com/service/support/software>
- Sun Java System のサポートおよびトレーニングサービス  
<http://training.sun.com>
- Sun Java System のコンサルティングおよび上級者向けサービス  
<http://www.sun.com/service/sunps/sunone>
- Sun Java System の開発者向け情報  
<http://sunsolve.sun.com>
- Sun Java System の開発者向けサポートサービス  
<http://www.sun.com/developers/support>
- Sun Java System ソフトウェアのトレーニング  
<http://www.sun.com/software>
- Sun Java System のソフトウェアデータシート  
<http://www.sun.com/software>

Copyright © 2005 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved.

Sun Microsystems, Inc. は、この製品に含まれるテクノロジーに関する知的所有権を保持しています。特に限定されることなく、これらの知的所有権は <http://www.sun.com/patents> に記載されている 1 つ以上の米国特許および米国およびその他の国における 1 つ以上の追加特許または特許出願中のものが含まれている場合があります。

SUN PROPRIETARY/CONFIDENTIAL.

U.S. Government Rights - Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

ご使用はライセンス条項に従ってください。

この配布には、第三者が開発したソフトウェアが含まれている可能性があります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。

Sun、Sun Microsystems、Sun のロゴマーク、Java、および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。